

# ループブック利用ガイド

## ▷ ループブックとは…

ループブックとは、学生の学習到達状況を評価するための評価基準のことです。客観的な成績評価の工夫として、どこに着目して評価を行うのか、具体的な判断の基準を示します。学生は、ループブックを利用して、どのように授業に取り組みばよいのか、学習意欲の向上を目指します。

## ▷ ループブック表の見方

ループブック表は、各講義の初回講義時に教員から配付されます。

- ※1 評価項目は、シラバスに明記されている到達目標ごとになります。
- ※2 評価比率は、全体評価を100%として各評価手段に配分されます。
- ※3 評価基準は、レベルごとに具体的な評価基準が示されています。



【授業ループブック例（科目：〇〇〇〇〇（演習））】

評価項目 到達目標	評価手段	評価比率	評価基準				
			4	3	2	1	0
新書読書の意義を理解し、新書読書の方法を学ぶことができる。 ブックリポートが書けるようになる。	ブックリポート	30%	27点～30点 S (30) 新書を読み始め、ブックリポートの内容が非常に優れている。	・24点～27点未満 A+ (26) A (25) 意義を十分に理解している。 ・ブックリポートが十分に書けている。	・21点～24点未満 B+ (22) B (20) 意義をある程度理解している。 ・ブックリポートがある程度書けている。	・18点～21点未満 C (18) 理解している。 ・ブックリポートが最低限の基準で提出できた。	・18点未満 D (16) 未提出 理解がなかった。 ・ブックリポートを提出しなかった。
社会的事象に対する課題の発見と解決の提言のための論理的な文章が書けるようになる。 クリティカル・シンキングを理解し、実践できるようになる。	提言文	50%	45点～50点 S (50) 非常に優れた提言文が書けている。 優れたクリティカル・シンキングによる深い考察がなされている。	・40点～45点未満 A+ (44) A (42) A- (40) 論理的な文章が十分に書けている。 ・クリティカル・シンキングの理解と実践が十分である。	・35点～40点未満 B+ (39) B (37) B- (35) 論理的な文章がある程度書けている。 ・クリティカル・シンキングがある程度理解され、実践されている。	・30点～35点未満 C (30) 論理的な文章が最低限書けている。 ・クリティカル・シンキングの最低限の理解と実践がなされている。	・30点未満 再提出 (15) 未提出 (0) 文章が論理的ではない。 ・クリティカル・シンキングができていない。
表現技法の授業を通して学んだ文章表現の技術を活かして、学前教育レポートを添削することができる。	学前教育レポート添削	5%	4.5点～5点 適切な添削により、非常に優れた文章になっている。	・4点 ・文章の添削が十分である。	・3.5点 ・文章の添削がある程度できている。	・3点 ・文書の添削が最低限なされている。	・0点～2点 誤字・脱字、文のねじれ等があり、添削があいまいになっている。
授業で課された課題にきちんと取り組み、期限内に提出することができる。	課題提出状況	5%	4.5点～5点 全ての課題が提出され、内容も非常に優れている。	・4点 ・課題の提出が十分である。	・3.5点 ・課題がある程度提出されている。	・3点 ・課題が最低限提出されている。	・0点～2点 ・課題が期限を過ぎて提出された。 ・課題が提出されていない。
ブックリポートと提言文についての報告会で、スピーチ原稿を作成し、スピーチができる。 クラスメートの報告に対して、客観的な指標に基づいた評価表を作成できる。	報告と評価表	10%	9点～10点 S (10) 非常に優れたスピーチ原稿作成とスピーチができている。 クラスメートへの評価も大変に適切で、適切なアドバイスがなされている。	・8点～9点未満 A (8) 報告会のスピーチ原稿作成とスピーチが十分にできている。 ・クラスメートに対する評価が十分にされている。	・7点～8点未満 B (7) 報告会のスピーチ原稿作成とスピーチがある程度できている。 ・クラスメートに対する評価がある程度なされている。	・6点～7点未満 C (6) 報告会のスピーチ原稿作成とスピーチが最低限できている。 ・クラスメートに対する評価が最低限なされている。	・6点未満 発表した (1) 発表しない (0) 報告会のスピーチ原稿作成が不十分で、スピーチができていない。 ・クラスメートに対する評価が基準通りにできていない。

※1

※2

※3

高 ← → 低